

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	崔 娉 【比較社会文化学専攻 平成25年度生】	<p>本研究は、中国語を母語とする日本語学習者（以下CJL）の未知漢字語彙の意味推測について、漢字語彙の日中対応関係、及び日本語習熟度の影響に着目し研究を行ったものである。研究1では語彙手がかりと文脈手がかりの使用について選択式により、研究2では手がかりを特定せず発話思考法を用い、未知語の意味推測がどのように行われているか、明らかにした。</p> <p>その結果、第一に、CJLはL2習熟度を問わず、また文脈の長さに関係なく、文や文脈を理解することで意味推測を試みていること、第二に、CJLは、語彙手がかりのみでなく、文の意味をはじめとした手がかりを用いていること、第三に、同根語であるかどうかや、文脈が提供する情報の質と量、さらには調査法の違いなどにより、意味推測の容易さが異なることなどが明らかになった。語の意味推測は、欧米などでさかんに行われ、また漢字語彙の意味推測は主に非漢字圏の学習者を対象として行われてきたが、同じ漢字圏であり、同根語や偽の同根語が多数存在する中国語を母語とするCJLの漢字語彙の意味推測研究は少なく、未知語の意味推測研究や漢字語彙の意味推測研究を一步前進させると考えられる。</p> <p>1月31日に実施された第一次審査では、総合的考察において先行研究を踏まえた位置付けなどが不明確であるなどの内容面における指摘などがあった。申請者はそれらの指摘を踏まえさらなる修正を加えた。改稿の後、2月18日に各審査員に改稿とコメントに対する対応表が提出された。その結果、公開発表会及び最終審査会に進んでよいとの判定を全審査員から得るに至り、2月28日に公開発表会が実施された。公開発表会では、研究全般について紹介があったのち、質疑応答が行われた。申請者はこれらの質問に対し、誠実かつ的確に回答していた。その後の最終審査会では、本論文が博士論文にふさわしいと判定され、博士（人文科学）(Ph. D. in Applied Linguistics)を授与することを全会一致で決定した。</p>
論文題目	中国語を母語とする日本語学習者の未知漢字語彙の意味推測 —漢字語彙の日中対応関係及び日本語習熟度の影響に着目して—	
審査委員	(主査) 教授 森山 新	
	准教授 西川 朋美	
	助教 石井 久美子	
	准教授 伊藤 さとみ	
	講師 菅生 早千江	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="checkbox"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	